広報 すぎなみ
Suginami
みどり豊かな　住まいのみやこ
10/15
令和5年（2023年）
No.2363

「響きの街」杉並で音楽を育て続けて。

小学生のときに作曲活動を始め、高校生でプロの作曲家に。多様なジャンルの曲を手掛ける一方で、吹奏楽指導者としても活躍する作・編曲家の福田洋介さん。11月の荻窪音楽祭では福島県南相馬市と区内の中学生たちと音楽を奏でます。作曲活動を振り返りながら、吹奏楽の指導に携わる思いなどを語っていただきました。

〒166-8570 杉並区阿佐谷南1-15-1 ｜ 3312-2111（代表）FAX 3312-9911（広報課直通） ｜ 区ホームページ：https://www.city.suginami.tokyo.jp/ ｜ 発行：杉並区 ｜ 編集：広報課

「広報すぎなみ」は月2回（1・15日）発行。新聞折り込みでの配布のほか、区施設・区内各駅などの広報スタンドに置いています。入手が困難な方には個別配布をしています。ご希望の方は、電話・ファクス・Eメール・LoGoフォームからお申し込みください。

詳細は、区ホームページ（右2次元コード）をご覧ください。

夢中になって体当たりで向き合う経験は、きっと 生きていく中で支えになってくれる

福田洋介（ふくだ・ようすけ） 昭和50年、東京都杉並区生まれ。作・編曲を独学で習得。吹奏楽・管弦楽・室内楽の作・編曲および指導・指揮に力を注ぐ。CDや楽譜が多数出版され、近年国内外で作品の評価が高まっている。シエナ・ウインド・オーケストラ、SEKAI NO OWARIなどの作・編曲担当としても活動し好評を博す。また、学生・一般団体の常任・客演指揮も精力的に務めている。

小学生から始めた作曲。吹奏楽部で得た音楽への気付き

―作曲に興味を持ったのはいつ頃で、きっかけは何だったのですか？

作曲に目覚めたのは11歳ごろ。それまで楽器を習ったことはありませんでしたが、両親の影響で幼い頃から音楽は身近なものでした。家のパソコンに入っていた音楽ソフトを使って、音をつなげて遊んでいたのが作曲の始まり。最初は、教科書に載っている合奏用の楽譜を見ながら一つ一つ音符を入力しました。すると手元で音がそれなりの形で再生されて、「すごい！」と感動。そこからどハマりして、学校から帰ると毎日夢中になっていろいろな音楽の楽譜を読んでは、パソコンに入力していました。

―自分で曲を作るようになったのはなぜですか？

▲小学生時代、自宅のパソコン前にて

楽譜の音を入れて遊んでいるうちに、「こうして音を並べていけば自分でも曲が作れるかも？」と思い付き、実際に作ってみました。「オーバーチュア（序曲）」と名付けた、1分ほどの短調のオーケストラ風の音楽。当時、いろいろなジャンルの譜面が家にありましたが、中でも僕はオーケストラのスコア（総譜）にひかれました。難解だった譜面も、頑張って読んでいるうちに理解できるようになりました。作曲の楽しさを知ってからは独学で曲作りを続けながら、中学校と高校では吹奏楽部に所属して、楽器の演奏や学生指揮者も担当しました。

―吹奏楽部では何の楽器を担当していたのですか？

中学校では打楽器、高校ではオーボエを担当していました。演奏をする一方で、仲間と演奏する楽譜を作る役目も（勝手に）引き受けて「この曲でコンクールに出演したい」と仲間や先生に自作の曲を提案したり、実際にその曲でアンサンブルコンテストに出演したこともあります。初めて作った吹奏楽曲も、高校の吹奏楽部の演奏会のために書いた「祝祭の詩」という曲です。

―自分が作った曲を仲間と演奏したときはどんな気持ちでしたか？

自分の作品を受け入れてくれたこと、一緒に演奏してくれたことに、感謝の気持ちが込み上げました。幼い頃から目立ちたがり屋で本当は表に出たいけれど実際は目立てない自分。どうすれば人に認めてもらえるのか？しかし人と同じことをしていては面白くないと、あまのじゃくな感覚も作曲を続けてきた背景にあります。でも、自分の曲を吹奏楽部の仲間たちが演奏してくれたとき、「仲間が一緒にやってくれることで、自分の音楽を発信できる」と気付きました。僕にとって「自分のこと」でしかなかった音楽を、「我々のこと」として僕を支えてくれた仲間たちの存在が本当にうれしかったです。この経験は、今でも吹奏楽に関わり続けている理由の一つかもしれません。

―プロの作曲家としてのキャリアはいつから始まったのですか？

11歳のときに作曲した「オーバーチュア」がプロ演劇の座長の耳にとまり、高校生のときにお芝居のテーマ曲として採用してくださったのが最初の仕事となりました。その後、テレビや映画・舞台・ネットドラマそして吹奏楽などさまざまな分野で作曲・編曲を手掛けてきました。

―曲はどのように作っていくのでしょうか？

僕の場合、作曲は全てパソコンで行います。このスタイルは11歳当時から全く変わっていません。作曲は言葉の覚え方と似ていて、どこかで新しい表現を知ったときに「その言い回しを使いたい！」と思う感覚に近いですね。表現とは、料理でいうところの材料。自分の中に蓄積された材料を使って、トライ＆エラーを繰り返しながら「自分の音楽」にしていきます。最初に思い付いた形から作っていく過程でどんどん変貌していくのがまた面白い。38年間作曲活動をしていますが、つらいと感じたことは一度もなく、うまくいかなくてジタバタすることはあっても、僕にとって作曲はいつだって楽しいのです。

学生たちと音楽を作るひとときは、発見の連続

―作曲家のほか、吹奏楽の指導者としても活躍されています。吹奏楽の指導に携わることにはどのような思いがあるのでしょうか？

中学校と高校の6年間に在籍した吹奏楽部で、「自分の音楽にチャレンジする」ステージを与えてもらったという実感があります。それは、ひとえに仲間や先生に恵まれたことが大きい。ですから、最初に吹奏楽の指導を依頼されたとき、自分が吹奏楽を通して何らかのチャレンジができた経験を、今また誰かに体験してもらえたらいいなと考えました。

―学生たちを指導している中でどのようなことを感じていますか？

中高校生そして大学生の指導が多いですが、その時間はまさに発見しかありません。譜面を渡して演奏してもらうと、僕が想像していた音楽とは全く違う音楽になる。大人の演奏は洗練され理想形が自然と作られやすいので、どのような演奏になるのかもある程度は想像がつきますが、学生たちの演奏は、良い意味で全くこちらの思い通りにはなりません。その膨らみがとてもクリエーティブで面白いのです。そんな学生たちを見ていると、特に中学生・高校生の時期というのは、本当に貴重だと感じます。

―学生たちと音楽に取り組むときに大切にしていることは何ですか？

「教える」ではなく「一緒に作る」という気持ちでしょうか。10代は、大人の入れ知恵だけでは音楽の答えを解けない、自分たちの工夫や気持ちで正解を探すことができる、「自らの手で音楽を育てる」ことにトライできる第一歩なのです。だからこそ「教える」というより、僕はいつも「一緒に演奏を作っていこう」と声をかけています。学生たちと一緒に練習すると、音楽がニョキニョキと育っていくのがよく分かるんですよ。

―吹奏楽を頑張る学生たちに伝えたいのはどのようなことですか？

ティーンエージャーであるこのときに、どっぷりと音楽にハマり、体当たりしている経験は、生きていく中で支えになってくれるはずです。この体当たりの時期に「音楽が好きだな」と思える土台が磨かれることで、たとえ楽器はやめてしまっても、音楽というものを自分のアイテムにしていってくれたらいいなと願っています。

地元・杉並への思いを込めた曲「響きの街へ」

―現在は、荻窪音楽祭の「みらい夢チャリティコンサート」に向けて中学生たちと練習に取り組まれてますね。

このコンサートは東日本大震災の後、福島県南相馬市と杉並区の中学生が共演して、僕の曲やクラシックの名曲を演奏することから始まりました。何年にもわたり、さまざまな素晴らしい指揮者たちがタクトを振ってくれました。その後、音楽祭の実行委員会から同コンサートのオリジナル曲を作ってほしいと依頼され、完成した曲が、荻窪音楽祭「みらい夢チャリティコンサート」のテーマ曲「響きの街へ」です。令和2年の初演以来、僕がコンサートの指揮を務めています。

―「響きの街へ」にはどのような思いが込められていますか？

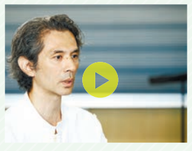
杉並に生まれて48年間暮らしてきた者として、「人々の優しさ」「まちの歴史」という2つのキーワードを曲に込めました。文化的で懐が深い、温かい杉並の人々。ゆっくりと変遷してきたまちの歴史を音楽で表現できたらと考えたのです。区内在住の中高生で編成される「杉並ユースウインドオーケストラ」と一緒にこの曲を演奏して、今年で4回目。このウインドオーケストラに参加する学生たちは年々増え、今年もまた大人数で音楽を作ることができています。

自分の曲で指揮するのは独特の緊張感がありますが、中学生たちとこの曲を育てる機会を得られることは、大きな喜びです。まだ成長途中の曲を地道に育てている最中ですが、区民の皆さんに曲のタイトルだけでも覚えてもらえたらうれしいです。昨年よりもグレードアップした「響きの街へ」をお届けできるよう、すてきに仕上げていきますので、ぜひご期待ください。

YouTubeで配信中！

すぎなみビト MOVIE

すぎなみビト「福田洋介さん」のインタビュー動画を、右2次元コードからご覧いただけます。



杉並区公式チャンネル

第36回 荻窪音楽祭

荻窪でクラシック音楽に触れてみませんか♪

荻窪音楽祭ホームページ▲

日程 11月2日(木)～5日(日)

場所 杉並公会堂（上荻1-23-15）ほか

「荻窪音楽祭」は、荻窪を豊かに暮らせるまちにしたいとの思いから、まちづくりの一環として、誰でも楽しめるクラシック音楽を通じて、文化的遺産を次世代につなげていく取り組みです。

・荻窪ユース・アンサンブルコンサート
・フレッシュジュニア・コンサート
・親子で楽しめるコンサート
ほか

福田さんがタクトを振ります！

第9回みらい夢チャリティコンサート

11月3日[祝] 午後1時30分

場 杉並公会堂（上荻1-23-15） 定 1000名（申込順） 申 荻窪音楽祭ホームページから申し込み

問 荻窪音楽祭事務局☎5347-0244（月～金曜日午前10時～午後5時）

すぎなみビト…区内外で活躍する区民などの紹介を通して、地域の魅力を発信していきます（毎月15日号に掲載）。